



建築物総合環境計画概要書 新築

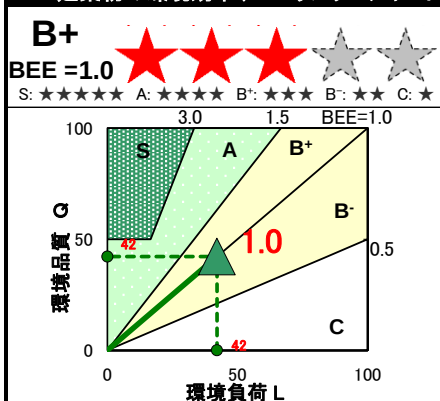
■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

1-1 建物概要

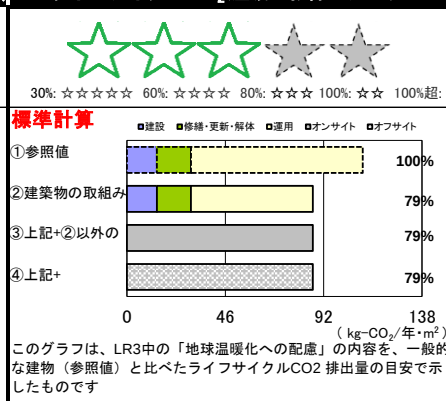
建物名称	(仮称)株式会社松岡 大阪南港第二物流センター 新築工事(事務所)	
建設地	住之江区南港南2丁目	
建築用途	事務所	
建築主		
設計者		
敷地面積	16,471.32	m ²
建築面積	434.74	m ²
延床面積	2,304.00	m ²
構造/階数	S造	/ 地上6階
完了年(予定)	2022年1月	

1-2 外観

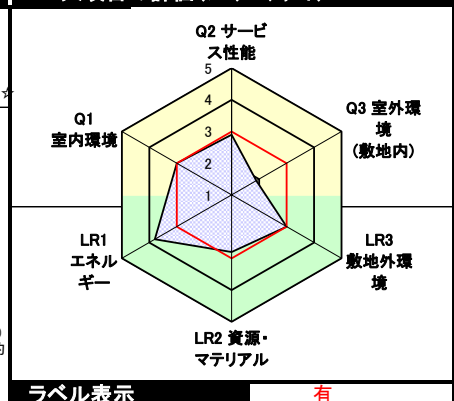
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



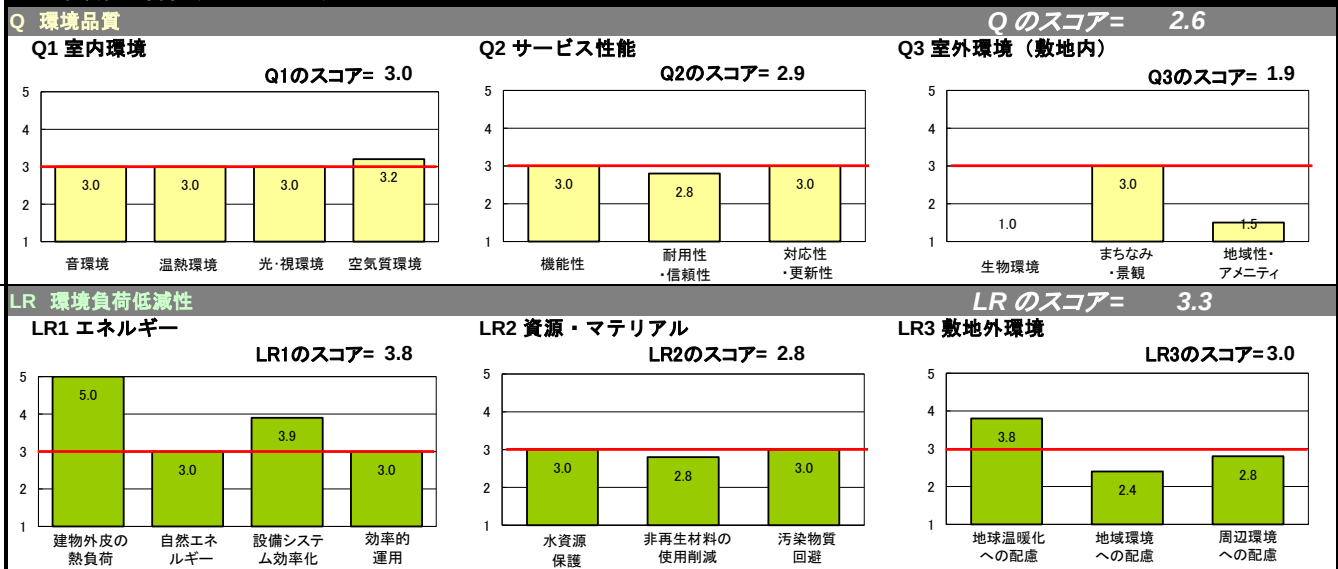
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 周辺のまちなみと連続性・統一感も持たせるように、建物外壁を道路境界から5m以上壁面後退させ、北側南側の接道部分にはフェンスを設けず緑地を配置し、快適な歩道空間の創造に努めている。建物の高さは、道路幅とのプロポーションや周辺の建物と調和するよう配慮し、色彩はホワイト、グレー系の落ち着いたものとした。		その他 特に配慮を行っていない
Q1 室内環境 室内環境について、建物内を全面的に禁煙とするなど、室内環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 執務環境に配慮し、リフレッシュスペースを十分に確保している。また、機械配管の支持方法を耐震クラスAとし、建物のサービス性能の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー BPI=0.79、BEI=0.71とし、建物の省エネルギー性能に十分に配慮した設計を行っている。	LR2 資源・マテリアル LGS地下やOAフロアを採用し、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率79%とし、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.0

ラベル表示



環境性能	評価点
(1)CO2削減	4.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮 3.8 ライフサイクルCO2排出率79%
配慮事項	省エネルギー性に配慮し、適切な緑化を行っている。

環境性能	評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策	2.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能	概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出 1.0
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上 2.0
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善 2.0
配慮事項	特に配慮を行っていない

環境性能	評価点
(3)建物の断熱性	5.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制 5.0 BPI=0.79
配慮事項	外壁に断熱サンドウィッチパネルを採用している。

環境性能	評価点
(4)エネルギー削減	4.0
CO2削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化 3.9 BEI=0.71
配慮事項	省エネルギー性に配慮した設備設計を行っている。

省エネルギー基準計算結果

基準 適合状況	適合
------------	----

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること（新築時）
 （基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること）

	住宅部分（品確法等級）	非住宅部分[BPI][BEIm]
外皮性能	- (相当)	0.79
	建物全体[BEI][BEIm]	住宅部分[BEI]
一次エネルギー消費量	0.71	-
		非住宅部分[BEI][BEIm]
		0.71

再生可能エネルギー利用設備導入検討シート（太陽光発電設備用）

1 設備導入の検討

① 周辺環境の把握

② 日照条件の検討

ア 検討対象とする場所	☒ 屋根部 地上高さ (22) m ☐ 地上部 (☐ 空地部分 ☐ その他) ☐ 壁面 ☐ その他 ()															
イ アの周囲における日射遮蔽物	☒ なし ☐ あり <table border="1"> <tr> <td>方位 ()</td> <td>高さ (約) m</td> <td>水平距離 (約) m</td> </tr> <tr> <td>方位 ()</td> <td>高さ (約) m</td> <td>水平距離 (約) m</td> </tr> <tr> <td>方位 ()</td> <td>高さ (約) m</td> <td>水平距離 (約) m</td> </tr> <tr> <td>方位 ()</td> <td>高さ (約) m</td> <td>水平距離 (約) m</td> </tr> <tr> <td>方位 ()</td> <td>高さ (約) m</td> <td>水平距離 (約) m</td> </tr> </table>	方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m	方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m	方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m	方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m	方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m
方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m														
方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m														
方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m														
方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m														
方位 ()	高さ (約) m	水平距離 (約) m														
ウ 日照の確保 (冬至)	☒ 十分 ☐ 不十分															

③ 日照条件に適合する場所の検討

ア 設置可能面積等	(300.0) m ² 方位 (南) 設置角度 (0) 度
イ 設置可能太陽光パネル面積	(120.0) m ²
ウ 設置可能容量	(16.4) kW
エ 利用設備に対する荷重対策	☐ あり ☒ なし
オ 設置に備えた対応	☒ なし ☐ あり (例：設備用基礎の設置) ()

④ 導入判断

検討結果 ☐ 導入する → 具体的な検討を行い、実際に設置する設備概要を 2 に記入

☒ 導入しない

導入を見送る理由（複数選択可）

- ☐ 日照が確保できない
☒ 躯体が荷重に対応できていない
☐ 敷地内に設置する場所を確保できない
☒ 費用負担が大きい
☐ 本計画では見送るが、将来対応可能とする
☐ その他 ()

2 導入する設備の概要

ア 太陽光パネル面積	() m ²
イ 発電容量	() kW

備考

注 2ア 太陽光パネル面積が、1③イ 設置可能太陽光パネル面積と大きく異なる場合、備考欄にその理由を記入してください。

1 設備導入の検討

② 日照条件の検討

ア 検討対象とする場所	☒ 屋根部 地上高さ（ 22 ）m ☐ 地上部 （ ☐ 空地部分 ☐ その他 ） ☐ 壁面 ☐ その他 （ ）															
イ アの周囲における日射遮蔽物	☒ なし ☐ あり <table border="1" data-bbox="617 616 1390 817"> <tr> <td>方位（ ）</td> <td>高さ（約 ）m</td> <td>水平距離（約 ）m</td> </tr> <tr> <td>方位（ ）</td> <td>高さ（約 ）m</td> <td>水平距離（約 ）m</td> </tr> <tr> <td>方位（ ）</td> <td>高さ（約 ）m</td> <td>水平距離（約 ）m</td> </tr> <tr> <td>方位（ ）</td> <td>高さ（約 ）m</td> <td>水平距離（約 ）m</td> </tr> <tr> <td>方位（ ）</td> <td>高さ（約 ）m</td> <td>水平距離（約 ）m</td> </tr> </table>	方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m	方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m
方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m														
方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m														
方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m														
方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m														
方位（ ）	高さ（約 ）m	水平距離（約 ）m														
ウ 日照の確保（冬至）	☒ 十分 ☐ 不十分															

ア 建築物の用途	事務所
イ 熱需要対象用途	☒ 冷房 ☒ 暖房 ☒ 給湯 ☐ その他（ ）
ウ 設置可能面積	(300.0) m ²
エ 概算年間熱利用量	(652,800) MJ/年
オ 利用設備に対する荷重対策	☐ あり ☒ なし
カ 設置に備えた対応	☒ なし ☐ あり (例：設備用基礎の設置) ()

検討結果 ☐ 導入する →具体的な検討を行い、実際に設置する設備概要を 2 に記入

■ 導入しない

導入を見送る理由（複数選択可）

- ☐ 日照が確保できない
- ☐ 年間を通じて安定した熱需要がない
- ☒ 躯体が荷重に対応できていない
- ☐ 敷地内に設置する場所を確保できない
- ☒ 費用負担が大きい
- ☐ 本計画では見送るが、将来対応可能とする
- ☐ その他（

ア 集熱パネル面積	() m ²
イ 概算年間熱利用量	() MJ/年
ウ 熱需要対象用途	☐ 冷房 ☐ 暖房 ☐ 給湯 ☐ その他 ()

4/4